



あなたの街の
ドクターが
アドバイス

女性に多い甲状腺の病気 ～見逃されやすいのはなぜ?～

甲状腺疾患の症状は、他の病気と似ていて分かりにくいものも

甲状腺は首の前側にある臓器であるということはおそらく知られていますが、普段はあまり意識することがないと思います。しかし甲状腺は体の代謝や成長に関わるホルモンを分泌するなど、とても重要な働きをしています。

甲状腺の病気には、「形」の異常と「働き」の異常があります。これらの異常は、病気の種類によって両方現れるか、どちらか一方だけが現れます。

病気になると多くの場合、甲状腺が大きくなります。中でも、形の異常には全体が大きくなる「びまん性甲状腺腫」や、一部がコブ状になる「結節性甲状腺腫」「甲状腺がん」などがあります。

一方、働きの異常とはホルモン分泌量の異常のことで、甲状腺ホルモンが過剰に作られる場合（甲状腺機能亢進症）や、働きが低下し甲状腺ホルモンが不足する場合（甲状腺機能低下症）があります。前者には「バセドウ病」「亜急性甲状腺炎」など、後者には「橋本病」などがあります。働きの異常の症状は多様であり、特に初期は症状があいまいで、ちよつとした体調の変化と思ひ見逃されてしまうことがあります。機能亢進症に多い動悸、多汗、いらいらするなどの症状は、更年期の症状と似たところもあります。また機能低下症に多い、だるさ、むくみ、寒がりになる、食欲が落ちるといった症状は甲状腺以外の病気の症状と間違われることがあります。

このように働きの異常による症状は、甲状腺に特有な症状ではないことが多く、わかりにくいのが特徴です。推定で日本人の20人に1人は何らかの甲状腺の病気になっているといわれ、男女比1対7程度と圧倒的に女性に多くみられます。

ほかの病気と同じように、甲状腺の病気も早く治療を始めた方がよいことはいままでもありません。医療機関を訪れるきっかけで多いのは首のはれ、甲状腺機能異常の症状、健康診断の指摘（採血、頸動脈エコーなど）です。首のはれが気になったり、前述の症状が心配だと思われる人は、一度甲状腺専門の医療機関を受診してみることをおすすめします。

今回のドクターは



大通り乳腺・甲状腺クリニック
院長
亀嶋 秀和 先生

1992年札幌医科大学卒業。
同大第1外科、がん研有明病院、
滝川市立病院、東札幌病院などの勤務を経て2017年4月開院